

桂キャンパスでの学生生活について

【ご意見・ご要望】（投稿日：2016年6月16日）

桂キャンパスの学生生活について意見を投稿いたします。

桂キャンパスは十数年前の移転以来、現在では工学研究科の大部分が教育・研究活動を行っています。

このことから、工学研究科の4回生になると、多くの下宿生は桂キャンパス付近に引っ越しをし、生活の拠点を移しております。

もう一つの三大キャンパスである宇治キャンパスも含め、吉田・桂・宇治の三キャンパスで連携して教育・研究を行うというのが京都大学の方針であると理解しています。

しかしながら、桂キャンパスにおける学生生活は、吉田キャンパスに於けるそれと比べ、極めて低い質にとどまっています。（宇治キャンパスについてはよく存じませんので、ここでは述べるのを避けます）

以下に私の思う問題点と要望を列挙致します。

1. 事務手続きの連携不足について

何かの書類を提出するために、吉田に出向かなければならないという例をいくつか経験しました。

例えば民間奨学金の申し込みについては、昨年度までは全ての手続きを吉田キャンパスの学生課奨学掛で行う必要がありました。

今年度からは一部がKULASISから行えるようになりましたが、結局最終的に書類を印刷し、吉田まで出向かなければならないことは変わりません。

また、最近KULASIS経由で周知のあったTOEFL iBT Practice Testの申し込みについては、吉田まで行かなければ申し込みを行うことができません。

工学研究科のいくつかの専攻は修士課程や博士課程の入試でscore reportの提出を求めるなど、TOEFL iBT受験に対するサポートは桂キャンパスでも手厚くあるべきだと考えます。

大学事務の方からすれば、「学内バスがあるではないか」と思われるかもしれませんが。しかし、学内バスで吉田に出向いた場合、移動と手続きを含めると3時間程度必要になります。

院生は講義・研究・研究室のセミナー等で大変忙しい日々を送っています。その中で、わずかに数分で終わる手続きのために数時間をかけて吉田キャンパスまで来いというのは、あまりにも酷ではないでしょうか。

学内便についても、どこに、どのような形で持っていけば良いのかわからず、学生が気軽に利用できる状況ではありません。

→ このような重要な手続きの際は、若干期間が短い・早い等でも構いませんので、桂キャンパスの事務でも受け付けていただけませんかでしょうか。また、特に手渡しの書類が不要な場合は、webやメールなどでの手続きで済むと大変助かります。

2. 学生生活（京都大学生協の運営）について

桂キャンパスにおける生協の運営は、縮小の一途をたどっています。

私が学生として過ごす中でも、食堂・売店の土曜・日曜営業の縮小を経験しています。

桂キャンパスは急勾配の坂の上に位置し、吉田キャンパスとは異なり気軽に学外に食事や買い物に出向ける環境ではありません。

院生は学会等の出張のため学割切符を購入することも多くありますが、これも即日発券はしてもらえない状況です。

→ 大学事務からどの程度生協に影響できるのか私は存じませんが、学生の教育・研究環境を担保する観点から、生協への要請や、学内への企業店舗の誘致を行っていただくことはできないでしょうか。(吉田キャンパスには学外運営のコーヒーショップもありますので、「大学内にはできない」ということにはあたらないと考えます。) 桂キャンパスには、当初予定された建物が立たなかったための空き地が依然残っています。大学の資産を活用する観点からも有効な方策と考えますが、いかがでしょうか。

工学研究科からは、ノーベル賞・紫綬褒章など、京都大学を代表する数多くの優秀な研究者・教育者を輩出しています。

この流れを絶やさないためにも、桂キャンパスの教育・研究環境の改善を強く望みます。

【回答】(回答日：2016年10月11日)

今後、桂キャンパスの学生に対して、関係部署と調整し、更なる利便性の向上、負担軽減や学生への配慮について、検討したいと思います。ご意見ありがとうございました。

(工学研究科教務課)

○民間奨学金の申し込み(教育推進・学生支援部学生課)

民間団体等奨学金の申込については、ご指摘のように、今年度から KULASIS での WEB 申請を導入し、学生の皆さんの利便性向上を図ったところですが、書類の提出方法などには未だ改善の余地があると考えております。

今回のご意見を踏まえ、更なる利便性の向上や負担軽減のため、吉田キャンパス以外の学生への配慮についても検討したいと思います。

○TOEFL iBT Practice Test の申し込みについて(国際高等教育院事務部)

国際高等教育院附属国際学術言語教育センター(i-ARRC)から案内していた「TOEFL iBT Practice Test」は、i-ARRC 初の課外学習事業として6月に国際高等教育院棟2階窓口で学生証の提示を受けたうえでアカウントの交付・使用説明等を行ったところです。現在、案内している課外学習事業では桂/宇治キャンパス・院生・外国留学中等の場合に限りメールでの受付にも対応しています。目下、オンラインによる受付システムを開発中です。

○生協(運営)について(教育推進・学生支援部厚生課)

現在、桂地区でも、食堂・購買の多くを、京都大学生生活協同組合に業務委託して運営しています(Aショップ、Bショップ、セレネ、アルテ、ハーフムーン・ガーデン、リュージュ、計7店)。ご指摘のように、食堂・売店の土曜・日曜営業の縮小というこ

とについては、生協の経営上の問題でもありますが、利用者の学生・教職員のみならずには、ご迷惑をおかけしております。

なお、ご意見にある、生協への要望ということについては、土日営業の拡大や新店舗の設置、学割切符の即日発券等を含むサービス向上についてのご意見と理解し生協に伝えさせていただきました。

また、学内への企業店舗の誘致については、現在、桂地区では、「ラ・コリーヌ」がレストラン営業をしています。

桂地区は、学生・教職員の利用数が少なく、企業も採算が取りにくいいため、出店が難しいという状況もありますが、今後とも、生協だけでなく民間企業店舗の誘致も視野に入れ、桂地区の福利厚生向上に努めていきたいと思っております。

○生協（JRチケットの発券）について（京都大学生生活協同組合）

JRチケットの発券にはJR専用の発券端末機器の設置が必要なのですが、端末設置費用・月額使用料が非常に高額で、1カ月で2000万円以上のご利用がないと事業継続が困難（赤字）であるというのが実情です。京都大学キャンパス内では、本部構内の時計台旅行センターに1台設置しており、旅行センターの利用規模で何とか事業継続できる水準でございます。現在、宇治キャンパスや桂キャンパス等では単独の端末設置が困難なため、急ぎの場合は、時計台旅行センターで発券し、各キャンパスに送達する場合もございます。このような事情から「即時発券」ができない状況ですが桂キャンパスでお申込みを16:30迄に済ませていただければ、翌日13:00にはお渡しできるようになっております。組合員の皆さまにはご不便をおかけしますが事情についてご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。